

Walter Colton Middle School

Midterm PPT

JAPN 320s



ジョーディン、チェルシー、ローレン、加藤真那、ブルック
Fall 2019

Outline

- これまでの授業
 - 学んだこと
 - SLのアウトカム
 - うまくいったこと
 - 難しかったこと
 - 残りの授業のゴール
-

これまでの授業

- 自己紹介
- 地理
- 食事
- おにぎり
- 服

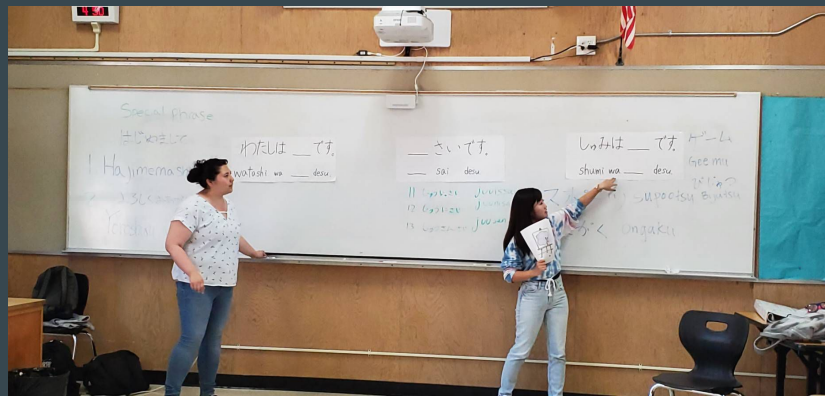
#1: 自己紹介

授業の目的:

- 生徒たちにアメリカと日本の自己紹介の違いを教える
 - 表現の順番(最小「初めまして」最後「よろしくお願いします」)
 - 内容(よく年齢と趣味を伝えること)

授業のアウトカム:

- 自分の
 - 名前
 - 年齢(11歳～13歳)
 - 趣味(音楽、スポーツ、美術、ゲーム)を日本語で言えるようにする



#2: 地理

授業の目的:

- 日本の地理を理解することにより、生徒にグローバル関係としての日本を理解させる

授業のアウトカム:

- 生徒たちは
 - 世界地図の中で日本を特定できるようになる
 - 日本地図の中で5大都市を特定できるようになる
 - 東京・大阪・名古屋・福岡・札幌
 - 最低一つはそれぞれの都市の名産物や観光地を言えるようになる
 - 東京スカイツリー・たこ焼き・名古屋城・明太子・さっぽろ雪まつり



#3: 食事

授業の目的：

- 日本の食べ物を通して生徒に文化の違いを紹介する

授業のアウトカム：

- 日本とアメリカの食習慣を比較できるようになり、標準的な朝食・昼食・夕食の違いを理解できるようになる
- 生徒たちはいただきますとごちそうさまでしたと言えるようになる



#4: おにぎり

授業の目的:

- おにぎりキャンペーンと関連させることで、世界の飢餓への関心も高めさせる。

授業のアウトカム:

- おにぎりの歴史を理解する
- おにぎりを作れるようになる
- その写真をSNSに投稿することによりおにぎりキャンペーンに貢献する



#5: 服

授業の目的:

- 伝統的な日本の服と現代の日本の服を通して西洋文化の日本への影響を理解する

授業のアウトカム:

- 文化的視点：
 - 伝統的な日本の服と現代の服を区別できるようになる
- 言語的視点：
 - ” To Wear” 以外の動詞を使うことを理解する
 - 動詞：「着る」「履く」「被る」「つける」「かける」「する」
 - 伝統的な服：「着物」「袴」「法被」「下駄・草履」
 - 現代の服：「メガネ」「帽子」「マフラー」「靴」「ネックレス・ピアス」



SLのアウトカム

例)「Multicultural Community Building/Civic Engagement」「Service and Social Responsibility」

おにぎりの授業の時、ただおにぎりを通して日本の文化を教えるだけではなく、世界情勢・問題を生徒たちに教え、また私たちも考え貢献することができた。授業中におにぎりを持った生徒たちの写真を撮影し、それをSNSに投稿することで、5食分の給食を飢餓の子供達に与えられた。また生徒に世界市民としての責任や自覚を少しは印象付けられたのではないかと思う。

学んだこと

- グループ内、またCPYスタッフやコミュニティーの人とよくコミュニケーションをとることは大事
- (まな)運動を取り入れた実践的な学習は大事
- (ジョーディン)生徒に意見を聞くこと
- (ローレン)ローテーションする
- (ローレン)生徒を小さなグループに分けた方がいい

うまくいったこと

- 食べ物の特ピック
- 生徒達が学習に高い関心がること
- メンバー内でお互いのアイデアを聞き、計画して、授業を考え達成できたこと
- 交代で運転していること
- 時間通りにサイトに行けていること
- (まな)レッスンの順番が順調なこと
- (ローレン) 来てくれる生徒が安定してきたこと
- (チェルシー) 生徒達が積極的に参加してくれたこと
- (ブルック) 学生はレッスンのトピックの多くが好きで、楽しんでいた

難しかったこと

- グループとしてミーティングし、コミュニケーションをとり、それぞれ何を教えるのか正確に知ること
- 授業後に話し合い、積極的に改善に向けて話し合うこと
- クラスルームマネジメント
- 自信を持って教えること

難しかったこと...続き

- (まな) 自分の英語力
- (チェルシー) 明確な指示を出すこと
- (チェルシー) 言語の授業を教えること
- (ジョーディン) 学生は早退し、両親に迎えられる
- (ローレン) 十分なアクティビティまたは多種多様なアクティビティがない
- (ブルック) 学生が注意を払っていることを確認する

残りの授業のゴール

-グループメンバー全員がプライベートな行事よりも優先的に活動し、コミュニケーションを絶やさないようにする

-サイドコーディネーターや他のスタッフと良い関係、または今より深い関係を築けるようにする

-引き続き様々なトピックを使い授業の興味を保ってもらえるようにする

残りの授業のゴール...続き

- (ジョーディン) 活動をよりアクティブなものにする
- (まな) 文化ではなく言語の授業を増やす
- (チェルシー) 楽しい方法で情報を教える
- (ローレン) 授業に参加してくれる生徒の人数を保持、または増やす
- (ブルック) 学生が日本の言語と文化をより深く理解できるようにすること